確かな学力の育成に向けて（研究推進校の取組）

学力向上実践研究　研究報告書

学校名　　十津川村立西川第二小学校

研究主題

「一人一人が『わかった』『できた』を実感できる授業を目指して～算数科の授業を通して～」

研究内容

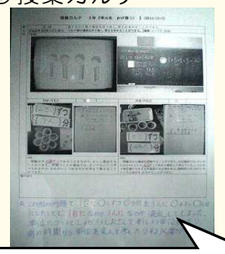
◎下校会での１分間スピーチ

日替わりで１分間でスピーチをする経験を積み、限られた時間の中で自分の思いを伝える練習をしている。

◎校内研究授業・ビデオ研究授業

１人年間２回、指導主事を招いた研究授業を行い、ビデオで撮影した映像をもとに、授業の仕方を討論する研究協議を行った。

◎授業カルテ



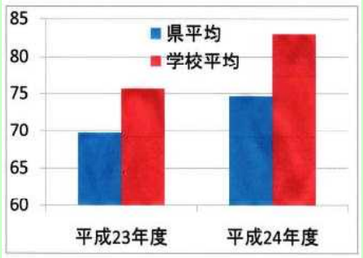
板書や児童のノート、活動の様子を写真に撮り、授業記録として自分たちの授業内容を見直す際に活用した。

研究の成果及び今後の課題

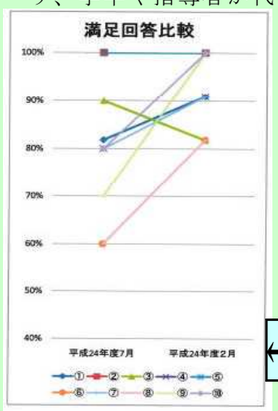
☆奈良県算数診断テストの分析

	H23年度	H24年度	H23からの変化
平均との差	+4.76	+8.38	+3.62

奈良県算数診断テスト結果比較



○算数科の授業づくりを中心に取り組んできた。２年目となり児童がわかりやすく学べる算数科の授業を構築できるようになってきた。
○授業の流れをつかみやすい板書やノートの取り方など、算数科における授業スタイルが全学年で統一されており、学年や指導者が代わってもわかりやすく学べる授業が確立されつつある。



○奈良県算数診断テストでは、県平均点を大きく上回る児童が増えた。少人数を生かして、個別指導にきめ細かく取り組んだ結果、平均点を大きく下回ることが少なくなってきた。
○意識調査の結果では、算数科に対する意識が全体的に上昇してきている。

●奈良県算数診断テストの成績が上昇してきているにも関わらず、意識調査③の「算数科の勉強の内容はだいたいわかっている」の項目で肯定的な回答が減少している。学年が上がり学習内容が増え、難しさを感じている児童が多いようであり今後の課題である。

←意識調査の項目番号

学力向上実践研究　研究報告書

学校名　　上北山村立上北山小学校
ＵＲＬ　　http://www9.ocn.ne.jp/~kamisho/

研究主題

「『伝え合う力・コミュニケーション能力の育成をめざして』の効果的な取組の研究」

研究内容

◎合同学習や交流学習

【児童相互の意見交流を重視した授業の追求】
合同学習をすることによって、多くの児童が交流し、意見を交換し合うことができる。また、近隣他校との積極的な集合学習や地域の方々との交流行事（学習）等の取組を通して、児童の多様なコミュニケーションを図る。

◎全校活動「スピーチ集会」

【少人数を生かす全校活動】
全校児童の前でスピーチをすることで、人前で発表することに慣れる。質問や感想を述べたり、質問に答えたりすることで、音声言語によるコミュニケーション能力、特に「受けて返す力」を高めることをねらいとしている。

◎国際科の創設

【小中一貫教育の推進】
小中の「連携から一貫へ」をめざし、９年間を見通した学習活動を展開することによって、少人数の本村児童生徒の学力向上をめざす。国際科において「異文化理解（英語活動）・自文化理解（ふるさと学習）・情報」を柱とし、多様かつ創造的な学習活動を行っている。

研究の成果及び今後の課題

全校スピーチ集会の成果（児童の意識調査から）

※調査対象児童　16名
（調査日：平成24年12月20日実施）

質問	内　　容（概略）	はい（人）	いいえ（人）
1	話し上手になってきた。	13	3
2	聞き上手になってきた。	15	1
3	感想や質問など意見もよく発表するようになってきた。	11	5
4	はずかしがらずに発表できるようになってきた。	12	4

○「話すこと」や「受けて返すこと」に苦手意識をもつ児童が多かったが、スピーチ集会や学習活動での積み上げを継続することによって、基本的な「話す・聞く」のスキルが身に付いてきた。また、話合いが盛り上がるようになり、児童が自信を深めてきていることが分かる。
○異学年との交流を多くもつことで、上級生や友達を見習ったり、責任感をもって役割を果たしたりするようになってきた。
●今後も少人数化に拍車がかかる中で、地域や他校との交流を含め、意図的に多くの人と出会う体験の機会を増やせるよう積極的に取り組む必要がある。

確かな学力の育成に向けて（研究推進校の取組）

学力向上実践研究　研究報告書

学校名　御所市立秋津小学校
ＵＲＬ　http://www5.kcn.ne.jp/~akitu/

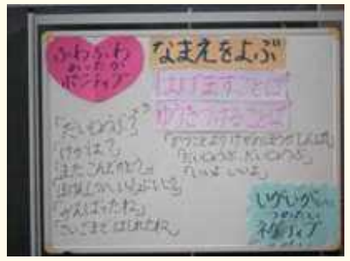
研究主題
「わかる授業、わかり合える授業の研究」

研究内容

◎学習態度（自尊感情）を高めることをねらいとして

児童が主体的に学べるようにその土台となる自尊感情を高めようと、全校や学級での人間関係づくりのためのＳＳＴに取り組んだ。また、児童の実態把握の為にＱ－Ｕを実施し、集団づくりの中心にすえる児童を明らかにし、意欲的に学習できるように進めてきた。

ＳＳＴ：ソーシャルスキルトレーニング
Ｑ－Ｕ：楽しい学校生活を送るためのアンケート



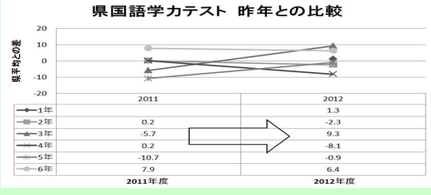
◎学習環境を整えることをねらいとして

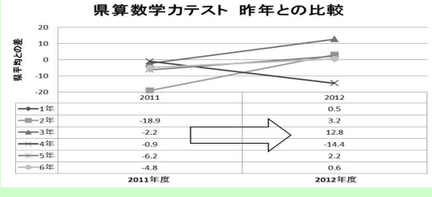
児童が学習に集中しやすいような学習環境をつくった。前方の掲示の仕方、一日のスケジュールの掲示、学習ルールの統一、机・椅子の高さの調整などに取り組み、スムーズに学習に向かえるようにした。

◎授業力の向上をねらいとして

全教員の公開授業と研究協議を行い、教員の授業力の向上を目指した。うち４本は外部講師を招聘して研究協議を行った。また、日々の実践に使えるスキルの向上を目指して現職教育も行った。

研究の成果及び今後の課題





○Ｑ－Ｕの２回目の結果をみると「要支援群」と「学級生活不満足群」が減り、「学級生活満足群」が増えてきた。それに伴い県の学力テストとの比較においても伸びを示している学年が多くなってきた。

○学習環境の基礎づくり（自尊感情の醸成、教室環境の整備など）は、来年度も継続して取り組んでいく。その上で教員の授業力を向上させ、児童に基礎基本の定着を図っていきたい。

○学力向上には、ハード面の整備や教員の授業力向上はもとより、児童が自発的に学習に向かう力となる自尊感情の醸成が必要となる。そのための取組をさらに進めていきたい。

学力向上実践研究　研究報告書

学校名　御所市立名柄小学校
ＵＲＬ　http://www5.kcn.ne.jp/~nagara/

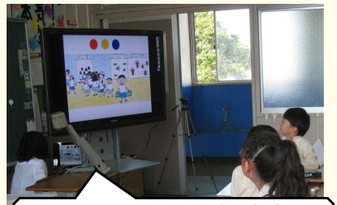
研究主題
「わかり合う子を育む　名柄スタイル」

研究内容

◎学びが深まる学習形態の工夫

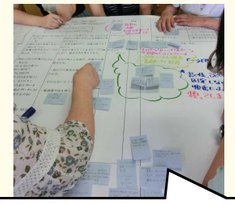
自己解決とペア・グループ学習、全体の学びを効果的に組み合わせて理解を深める授業設計に取り組んでいます。

◎わかる・楽しいＩＣＴ



課題・発表の拡大掲示だけでなく、文章問題のイメージ化にもＩＣＴを活用しています。

◎ＷＳ型研究討議で授業力ＵＰ

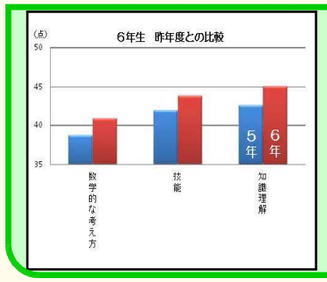


指導案拡大法・マトリクス法を用いて教員一人一人の意見が反映される研究討議を進めています。

ＷＳ型：ワークショップ型

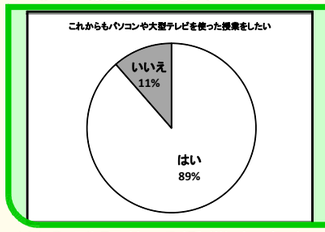
研究の成果及び今後の課題

ペア・グループ学習で学びを深める



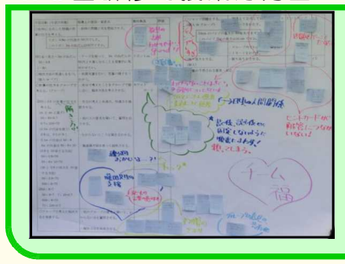
○効果的にペア・グループ学習を取り入れた学年の算数科において平均点が上がった。（学年全体・課題の多い子ども）
○自分の考えに確信をもち、意欲的に取り組む姿勢ができてきた。
○多様な考えが生まれ、全体の学びが深まった。
○個別の課題を克服しようと、個別学習にも意欲的に取り組む姿勢ができてきた。
●相手に頼りきる子ども、学びから孤立しがちな子どもへの対応。
●学習形態に着目した学びの三要素（個、ペア・グループ、全体）のバランス。

ＩＣＴ機器活用でイメージ化を図る



○「わかりやすい」「わからないことをすぐに調べることができる」と有用性を子どもたち自身が感じ取っている。
○算数科の図形の単元では、視覚的に訴えることができ、理解がより深まった。
○文章問題の読み取りに活用することができた。
●教員のＩＣＴ機器に対するスキルアップ。

ＷＳ型研修で授業力向上



○指導案拡大法を使い学習の流れに沿った授業分析を行うことができた。
○次年度以降、同一単元を授業設計する際の参考意見とすることができる。
○ＷＳ型の研修を行うことで、教員一人一人の意見を反映することができた。
○若手教員がグループリーダーになって発表することで、授業分析の力や教材研究の力がついてきた。
●効果を更に検証し、本校の実態に即した研修の在り方への改善。